

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]
TAKE FREE

Flair



December 2009 / Winter
Vol.
76
THE TEIKYO SELF

CONTENTS

- 02 This is my style.
こんな風に、暮らしています
- 12 Good Fellows.
やっぱり仲間が、一番です
- 14 Surprise Us.
先生が、教えてくれるコト
- 15 What's Up?
いま、何やってる?
- 16 Our Recommend!
みんなの、カルチャー
- 18 Flair Workshop.
ワクワク企画が、満載です
- 22 Good Health.
やっぱり健康が、一番です
- 23 Notice Board.
大学からのお知らせです

特集

プロデュースって なんですか？



www.teikyo-u.ac.jp/flair/



発行月：2009年12月（年4回発行）
発行：帝京大学本部大学PB推進室 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189 E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp
URL: <http://www.teikyo-u.ac.jp/flair/> ご意見・ご要望をお待ちしております。郵送またはFAX、E-mailにてお寄せください。 © 帝京大学 2009 禁・無断転載



宇都宮キャンパスにて

File:14

name:
高橋 健人さん(右)
大根田 陸さん(左)
grade:
1
hobby:
レスリング
class:
医療技術学部
柔道整復学科

自分たちのベースで、勝利を楽しみ続ける。

栃木県内の別々の高校でレスリングを始め、大会ではしばしば顔を合わせていたという高橋さんと大根田さん。縁あって宇都宮キャンパスで再会した2人は、今やともに練習を重ねるパートナーだ。「なにせ、部がありませんから(笑)。今は時々、大根田くんの母校で練習をしています」と高橋さん。強豪校に進学する道もあったが、そこで自分自身が埋もれてしまうのが嫌だったという。大根田さんも続ける。「マイペースで、長く続けていけたらいいなと思っています」レスリングの醍醐味はやはり「勝つこと」という2人。当面の目標は部の設立だが、高校時代に経験した全国大会の舞台に再び立つべく、彼らは走り続ける。もちろん、自分たちのペースで。



びっくりするほど軽いレスリングシューズは、高校時代からの愛用品。これまでの努力の跡がしみ込んでいる。



板橋キャンパスにて

File:13

name:
阿部 宏美さん
grade:
2
hobby:
手話
class:
医療技術学部
診療放射線学科

伝わる喜び、伝える楽しさ。

診療放射線技師をめざして、目下勉強中の阿部宏美さん。1年生から始めた手話に夢中だ。手話サークル「[better days]」の会長を務め、手話コーラスの練習に励む毎日。「聴覚障害のある方たちと身体全体で音楽を楽しめる場を作りたいんです」と話す。「手話って意外と覚えやすいんですよ」と謙遜するが、たった1年で日常会話程度の手話を覚えるまでには、相当の努力が必要だったに違いない。「将来、職場で聴覚障害のある患者さんに、手話で話しかけられるようになりたい。そうすれば、患者さんの不安が和らぐかもしれないから」と、そんな他人を思いやる優しさ、とびきりの笑顔が阿部さんの魅力。診療放射線技師となって活躍する彼女の姿が目に見えそうだ。



手話サークルで出会った仲間は一生涯の宝物。手帳には、見ると元気になれるという仲間との思い出の写真がたくさん。

This is my style.

こんな風に、暮らしています

今まで誰も気に留めなかったものが、ある日突然輝き始める。近年そんなグッド・プロデュースが、世の中を面白くしています。1からクリエイトするのも楽しいけれど、既存のものを見つめ直して再び売り出すのもまた、ポジティブでやりがいのあるステキな作業ですよ。というわけで今回の特集は“プロデュース”。施設から商品、そして“自分自身”のプロデュースまで、思わず「すごい！」といわずにいられない発想から目が離せません。



特集

プロデュースってなんですか？

人は誰もが、自分自身のプロデューサーなんです。

普段からよく耳にする「プロデューサー」という言葉。その単語自身の意味について深く考えることはあまりないかもしれませんが、みなさんの頭の中にも「対象物を良く見せるためにあれこれと働きかけること」といった、漠然としたイメージくらいはあるのではないのでしょうか。

プロデューサーを仕掛けていく人のことを、プロデューサーと呼びます。身近なところでは、音楽やテレビ番組、映画のプロデューサーなどが思い浮かぶでしょう。みなさんの中には、好きなミュージシャンや映像作品

などに加えて「好きなプロデューサー」が存在する人もいるかもしれません。裏方と呼ばれるポジションにいながら、しっかりと自分自身の色をアウトプットできる彼らはまさにプロフェッショナル。作品そのもののクオリティだけでなく、主役となるヒトやモノへの精神的なフォローや制作進行管理など、数々の役割をこなさなければならぬマルチな職業ともいえます。

しかし日常生活の中で、私たちが自分発信で「何かをプロデュースした」ということはほとんどありません。「だって、何もプロデュースしてないし！」とも思われるかもしれませんが、実は誰もが知らず知らずのうち

に自己プロデュースを行っていることが多いのです。例えば「今日のピアスは星型にしよう」「4年間で何かひとつ資格を取ろう」など、なりたい自分になるための手段を選び実行に移すことだってその一環。つまり対象に限らず、「これをこうしたい」という気持ちさえあれば誰にでもできることなのです。

決して表に出るところではない縁の下の力持ち、的な作業だけれどその分、周りから反響があったときの喜びや達成感は計り知れない。それが、プロデュースの醍醐味です。この機会に、コミュニケーションの潤滑油ともなりうるプロデュースの魅力について、一緒に考えてみませんか？



What is Produce? 4 SPECIAL CONTENTS

4つのプロデュース、紹介します。

みんなのプロデュース

▶▶▶ P09

現役帝京大生のラップグループとお笑いコンビ。自分のキャラクターを売り出し、作品をお客さんに発信する上で、作り込みの段階から既に「自己プロデュース」をしている彼らの素顔と信念に迫ります。

旭山動物園を救った、

温かいプロデュース ▶▶▶ P06

来園者数の少なかった北海道・旭山動物園を、全国的に有名にしたプロデュース法について園長さんにインタビュー。目新しさより、今いる動物たちを大切にすることで動物園のあるべき姿が見えてきました。

就職活動でプロデュース

▶▶▶ P10

既に就活で結果を出している人たちは、どんなところが評価されたのだろうか？『面接の達人』著者の中谷彰宏さんが、帝京大生就職活動を分析。彼らの「よかったポイント」を、わかりやすく解説してくれます。

プロデュースで生まれ

変わったものたち ▶▶▶ P08

普段何気なく使っている電化製品や、口にしてる食品。がらっとリニューアルしなくても、ちょっと違う角度から見るだけでブレイク商品になることも。そんな伝説のプロデュース商品たちをご紹介します。



旭川市旭山動物園
Asahi-yama zoo
雪景色のなかで見る、動物たちの姿はいちだんと印象的。住所：旭川市東旭川町倉沼 TEL:0166-36-1104 ※開園期間、入園料等は <http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/> にて。



坂東 元さん
Gen Bando
園長
酪農学園大学酪農学部獣医学修士課程を卒業後、旭川市旭山動物園に獣医師・飼育展示係として勤務。2004年より副園長を務め、2009年4月より園長に就任した。

PRODUCE POINT 2



空を飛ぶように見える仕組みの水槽が楽しい、ペンギン館
(上) 冬の限られた時期、園内をお散歩する姿が大人気になったペンギンたち。陸にいたときは、なんだかのんびりリラックスした様子。
(下) これがペンギンなんだ、と見る人に驚きを与えるトンネル型の水槽。まるで空を飛ぶように、すいすいとペンギンが泳ぐ姿は圧巻。

PRODUCE POINT 1



ふさふさの毛並みまで観察できる、ほっきょくぐま館
(上) 陸の上で見るホッキョクグマは、首を振り回り雄大な雰囲気。
(下) 100kg～300kgあるというホッキョクグマが巨大プールに飛び込むと、水しぶきとともにお客さんの大歓声が。プールは真横から見ることができる。ゆったり泳ぐ姿には、みんなくぎづけに。



図面を見ながら、道内にある他の動物園スタッフから相談を受ける坂東さん(左)。動物の展示の設計から方法まですべて彼が統括して行っており、展示手法に関してのさまざまな問い合わせが相次いでいるという。

ASAHIYAMA ZOO 旭山動物園を救った、 温かいプロデュース

閑散とした古い動物園を、新しい展示手法でプロデュースした北海道・旭山動物園。原動力になったのは、お客さんの笑顔と動物園で生きる動物を大切に作る気持ちでした。

動物園の本来の役割とは何なのかを知ること。
「例えばヒヨウは、高いところが好きなんです。そこで檻を空中にせり出すようにし、下から見上げてみたらすごいインパクトだった。私たちからは足も見られるし、彼らからも人間がよく見えるように表情に変化が表れました。人との距離感が、刺激になっていくんですね」
以来、この新しい展示手法に惹きつけられて、予想以上に来園者数が増加。平成18年には年間300万人を突破した。うれしい反面、坂東さんは数字よりも大切なことに気づき始める。それは動物の存在であり、動物園のあり方そのものだった。
「檻の中でも、動物は動物として必死に生きようとしている。死ぬときも『どうにかしてくれ』とは言わない。その潔さや純粹さは人間にはないし、人間と対極の存在として彼らはいるような気がするんです。そのあたりも来園者の方々に感じてほしい、それが動物園の役割なんじゃないか、と今は思います」
お客さんに喜んでほしい、という思いで行った動物園の自己プロデュース。その結果、動物本来の生態を理解し、一緒に生きていくことの意義を再認識した。すべては動物たちからの大切なメッセージに気づくためのプロセスだったのかもしれない。

動物が、生き物として見られていなかった。
「珍しい動物もいないし、施設も古いからお客さんは来ない。だけど僕たちにとって動物って、一生関わっていきける素晴らしい存在なんです。だからお客さんとも、同じ気持ちで共有したかった。それがきっかけですね」
雄大な自然が広がる、北海道旭川市の旭山動物園。一時は年間来園者数が26万人にまで落ち込んだこの園を立て直したのは、動物が野生に近い環境で思い思いに生きるさまを見せる展示手法の採用だった。園長の坂東元さんは、その経緯をこう語る。
「お客さんの中には『動物が寝ていてつまらない』と言って石を投げたり、棒でついたりする人がいたんです。でも自分の飼い猫がごろんと丸くなっているところに、石を投げる人なんていないでしょう？ どうして動物園ではそうやってしまうのか、不思議で仕方ありませんでした」
動物が生き物として見られていない。そう感じた坂東さんは、まず彼らの命を感じてもらおうことが大切だと思ったという。
「生き物はモデルチェンジできないし、流行りの動物を取り入れて飽きられるのも嫌だった。『動物だっつてここで生活しているんだよ』ということがわかれば、今までも見方も変わるんじゃないかな、と思ったんです」

PERFORMANCE

みんなのプロデュース

自分のスタイルを、どう人に伝えていくか。様々なプロデュース方法が存在する中で、一人ひとりのセンスが求められる、こんな手段を選ぶ学生たちもいます。



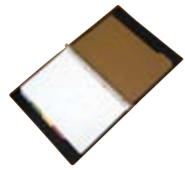
Comedy Group

Constantine

芸人の個性を活かしながら、お客さんが楽しんでくれるネタを追求する“お笑い”。

「黒板が小さく見える」ってお客さんに言われちゃいました。

小2の頃から芸人をめざしている石黒さんが、石塚さんを相方に誘ったのは半年前。それまでお笑いなどやったことがなかった石塚さんは、初めて経験した寄席でうまくいかず「ここで笑いが取れたらすごいと思った」と言う。「知らない人を笑わせるのは、何よりも大変」と、石黒さんも同意見だ。お笑いは、客席とのコミュニケーション。ゆえに、自分たちのキャラクターが一番立つ方法を追求しなければならない。彼らの自己プロデュースポイントは、何気ない日常の「おかしいネタ」と、ふたり合わせて200kgはあるという大きな体に大きな声。「迫力がある」「黒板が小さく見える」といったお客さんの温かいコメントからも、ふたりの芸風が浸透していることは間違いなさそうだ。



ネタ帳

普通に生活して面白かったことがあったら、メモをする。それをあとからきれいに、このノートに書き留める。身近なことをネタにするほど、お客さんは笑ってくれるという。

石黒真寿さん(右) Masakazu Ishiguro 法学部法律学科3年
石塚明さん(左) Akira Ishizuka 文学部心理学科3年
結成半年のお笑いコンビ「コンスタンティン」。石黒さんが以前組んでいたコンビの解散に伴い、石塚さんを誘ったのがきっかけ。石黒さんがボケ、石塚さんがツッコミを担当する。

Rap Group

GENTLE B

散文詩と音、そして気の合うメンバーがフィットして初めて主張する“ラップ”。

何でもアリな音楽だから、僕らのスタイルを追求します。

「メッセージ性の強い内容ならどんな言葉を用いるか、ノンテマならどう韻を踏むかなど、曲によって意識するポイントが変わります」と語るのは、有志のラップグループ「ジェントルB」の佐藤さん。メンバーの長谷川さん同様、常に自分にしかできない斬新な表現を求めてリリック(詩)を書き続けている。「半拍ずらしたり、影響を受けた人のマネをしたりと、いろんな手法を試している」と言うのは、主に音作りを行う大草さん。リリックの内容からリズムパターンまで何でもアリなヒップホップだからこそ、枠を固めないのが彼らのスタイル。自分たちの感覚が「かっこいい」と唸るラップを追求することそのものが、彼らにとっての自己プロデュースなのである。



リリック帳

心境によって浮かぶ言葉が変わるため、リリック帳をつけているという3人。同じテマで作っても、生まれるリリックのトーンは違う。それぞれの個性はなるべく活かす。

佐藤拓朗さん(右) Takuro Sato 経済学部経営学科3年
長谷川佳史さん(中) Yoshifumi Hasegawa 文学部日本文化学科2年
大草拓郎さん(左) Takuro Okusa 経済学部経済学科4年
山登りサークルで知り合い、結成された、有志のラップグループ「ジェントルB」。今年の青春祭屋外ステージにも登場予定だったが、雨で中止になり相当ショックを受けたそう。

マスキングテープ
「mt」
カモ井加工紙株式会社

工業用のテープにさまざまな色やデザインの工夫を加え、ラッピングなどの新しい使い方を提案。その結果、女性中心に大ブームに。発想の転換がプロデュースの基盤になった好例です。

「明治おいしい牛乳」
明治乳業

グラフィックデザイナーの佐藤卓氏が、今までの牛乳のパッケージとは異なるデザインを提案。分かりやすいネーミングなど、そのシンプルさが商品群の中でも際立つ存在です。

「イオン式サイレント空気清浄機」(右)
「ポケットビデオカメラSAL」(左)
amadana

「住空間そのものをデザインする」という目的で魅力的な家電を開発し、脚光を浴びたamadana。その背景には、プロダクトデザイナーなど多くの人の力がありました。

「すず籠」
鈴懸

福岡の老舗・鈴懸が、もっと多くの方に鈴懸を知ってもらいたいと屋号の一部である「鈴」を型どって制作。他にはない鈴の形の最中は、伝統の味と共に鈴懸の看板になりました。

PRODUCT

プロデュースで生まれ変わったものたち

今まであまり注目されなかった商品が、見た目、方向性を変えて世に現れたとたん、一気にスターになる瞬間があります。プロデュースの力って、すごい!



4
分かりやすさを追求しました。

3
元々は工業用のテープ!

2
ころんとした形が人気です。

1
おしゃれ家電の先駆けです。

JOB HUNTING

中谷さん、私たちの就職活動はどうですか？

就活生のバイブル『面接の達人』著者の中谷彰宏さんが、今年の内定者2人の就職活動を分析。その勝因となる“自己プロデュース力”について解説します！



田部伊久磨さん Ikuma Tabe 法学部法律学科4年
某大手広告代理店内定。業界の本をボロボロになるまで読み込み、大手広告代理店の有識者が開くセミナーにも積極的に参加。行き詰まったときは父や姉、テコンドー道場の先輩など、年上の人に相談した。

なぜ広告業界を志望するか、そして自分には何ができるか、とにかく掘り下げた。

誰にでも必ず、自分の中にPRポイントがあるはず。

田部伊久磨さんが広告業界を志したのは、10代の頃に見たスポーツメーカーの広告に心を強く揺さぶられたことだった。自分の半生を深く掘り下げた結果、節目節目で広告に影響を受けていることを再認識したという。その彼が最も力を注いだのは自己PRだ。「大学時代に打ち込んだテコンドーで、忍耐力とコミュニケーション力を身につけたことを具体的なエピソードとともに語りました。実績を作るほどではなかったけど、どんな小さなことでも必ずPRポイントはあります。現に面接官にも、そのことについて、たくさんの質問を受けました」

些細なことでも、心に残ったことを追求していけばいい、と彼は言う。彼にとって自己プロデュースのヒントは、自分自身の奥にあったのだ。

My Suit Style



Good Produce Point!

面接で大切なのは、話が具体的であること。その源は自分自身の「体験」です。田部さんは、自身の体験を具体的に語っていますよね。彼が体験したことは、彼にしか話せないことなんです。面接で「こう言ったほうがカッコいい」と思った瞬間に、人と考えが似てしまうだけでなく、抽象的で薄くなります。狭く深く考えることです。



平野真莉奈さん Marina Hirano 法学部法律学科4年
富士通株式会社内定。内定先にはインターンシップで3度も訪れた。「こんなに楽しい仕事があるんだ」と思ったことが、入社への思いを強くした。ちなみに就活中の息抜きは、キャリア12年のテニス。

頭で考えるばかりでなく、とにかく自分の足で動き、常にアップデートした。

人と接する中で、大切なポイントが見えてきました。

今年の春、めでたく富士通に内定した平野真莉奈さん。だが、その道のりは、決して平坦ではなかった。元々めざす業種も職種も明確でなかった彼女が重きを置いたのは、“自分の足”で情報収集をすること。2年生の頃からセミナーやインターンシップなどに積極的に参加して、業界研究をしながらたくさんの学生や社会人と対話してきた。「昔から人見知りだったんですけど、社会では通用しないと意識して人と話をするようにしました。アドバイスも、できるだけ謙虚に受けとめるようにしたこともよかったですね」

面接を受けた会社数、およそ70社。他者と接した経験をプロデュース材料に変えていった彼女の姿勢が、内定獲得への第一歩につながったことは、いうまでもないだろう。

My Suit Style



Good Produce Point!

強調したいことを大きめに書くなど、履歴書の書き方が工夫されていますね。きっと何度も面接を受けていくなかで、どんどん履歴書を進化させていったのでしょう。良かったことでも悪かったことでも、面接官に突っ込まれたポイントを自分なりに解釈し、レイアウトを含めて書き方を変えていくことは、実はとても大切なことなんです。



中谷彰宏さん Akihiro Nakatani 作家

1959年大阪府生まれ。広告代理店のCMプランナーを経て、中谷彰宏事務所を設立。ベストセラー『面接の達人』他、人生を指南する著書や小説などを多数執筆。現在は「中谷塾」を主宰し、全国で講演活動を行う。公式HPはwww.an-web.com。



就職活動における自己プロデュースのヒントは、学生生活で「一番時間を使ったこと」にあるという。

就活に役立つ8つのプロデュース術。

たくさん面接を受けること

面接官は敵ではなく、自分のあやふやなところを発見してくれる協力者。だから、たくさん面接を受けたいのが得なんです。

人と同じ発言は避けること

本やパンフレットから言葉を拾うと、他の人と同様な発言になりがちです。自分の人生から言葉を導き出しましょう。

いろんな業界を受けること

いろんな業界を受けて、いろんな志望者や面接官と会うこと。そうすることで、自分自身がどういった人間か見えてきます。

狭く深く掘り下げること

例えば「映画」より「韓国映画」、「洋食」より「オムライス」。狭く深く掘り下げることで、本質は伝わりやすくなります。

体験から導き出すこと

4人いたら4人の体験が同じということはありません。自分の体験から導き出すことが自己プロデュースにつながります。

自分探しから逃げないこと

自己PRは難しい。なぜなら、どこにもデータがないから。でも逃げずに自分と向き合うことで、答えは見えてきます。

とにかく「書く」こと

考えたことを常に記録しておき、忘れた頃に読み返してみることで、自分探しのヒントが見つかることもあります。

親世代に面接をしてもらうこと

面接官は、親世代の方が多いです。親世代に伝わらないことは、面接官にも伝わらないということを忘れないでください。

JOB HUNTING 中谷さん、就活のプロデュース術を教えてください！

厳しい就活を乗り越えるためにはどうしたらいいのか、今までたくさんの就活生と対話をしてきた作家の中谷彰宏さんにアドバイスをもらいました。

就活は自分を知るための絶好のチャンスである。

「いざ就活!となると「面接で何を話せばいいの?」とナーバスになる人も多いはず。そこで中谷さんが「今まで一番時間を使ってきたことに焦点を当てよう」とアドバイスしてくれた。「そこに、自分らしさのヒントがあるはず。どう見られるかより、まずは自分が好きなのかを大切にしてください」それを切り口にして、あととはにかかくたくさん面接官や

OB・OGに会うこと。「そこでOB・OGに会うと、自分のキャリア探しにつながる」と中谷さん。自己プロデュースのヒントは、結果ではなくプロセスに存在するのだ。「そうすれば就活を口実に、知らなかつた自分が見えてくる。自己プロデュースとは気づくことであり、生まれ変わること。だからとても楽しいんですよ」上手に自己プロデュースできれば、自ずと結果はついてくる。まずは「自分を知る」いい機会だと思つて就活を楽しもう。そう、中谷さんは教えてくれた。



『面接の達人 バイブル版』
毎年改訂しながら何年も就活生に読まれ続けてきた「メタツ」の最新バイブル版。ありのままの自分を伝えることは難しい。そのための準備をアシストしてくれる1冊。(ダイヤモンド社 ¥1,260)



『大学時代しなければならぬ50のこと』
中谷流・大学時代の過ごし方講座。「卒業までにやりたいことが見つければ、夢は必ず叶う」というメッセージが強い。ぜひ在学中(しかも早いうち)に読んでおきたい。(PHP文庫 ¥520)

帝京大学
ソフトテニス部

Teikyo Univ.
SOFT TENNIS CLUB

現在部員は総勢約50名。週2回の集合練習以外に、各自が自主練習に取り組んでいる。昨年は、男子が関東秋季医歯薬ソフトテニスリーグ戦3位、女子が関東春季医歯薬ソフトテニスリーグ戦3位という好成績を残した。

テニスコートに色とりどりのウェアを着た学生たちが集まってきた。この日の写真には収まらなかったものの、相模湖キャンパスの軟式庭球部は総勢約50名の大所帯。部員の中には大学からテニスを始めた初心者もいれば、かなりの経験者もいる。部をまとめるのは難しそうだが、昨年部長を務めた3年生の本多望美さんは、笑顔でこたえる。「どんなことでもみんなで協力してやってきたから、大変なことは何もない」

軟式庭球部の自慢は、みんながすごく仲がいいこと。3年生の秋に部を引退したあとも、先輩たちは頻りにテニスコートを訪れる。卒業後も試合の応援に駆けつけてくれる先輩も多く、その存在は大きい。「薬学部は3年生以降、一段と勉強が大変になるけど、笑い合える仲間と、いろんなことを相談できる先輩がいてくれるから心強い」と話すのは、本多さんとヘアを組む3年生の中澤菜摘さん。相性抜群の2人は、関東秋季医歯薬ソフトテニスリーグ戦で優勝という素晴らしい成績を残した。

また、個々の活躍に加え、医歯薬ソフトテニスリーグ戦の団体戦でも好成績と、その団結力には、目を見張るものがある。「部員が多いから、みんな試合に出たくて必死で」と話すのは、元副部長で3年生の井上慶大さん。忙しい授業の合間をぬって、自主練習に励んできたのだと、照れ笑いを浮かべる。

そんな優しく頼もしい3年生は、この秋引退を迎え、次に続く後輩たちにバトンをたくした。「軟式庭球部みんなが大好きだから、きつとまたテニスコートに来ちゃうんだろうな、私たち」という言葉を残して。

また、個々の活躍に加え、医歯薬ソフトテニスリーグ戦の団体戦でも好成績と、その団結力には、目を見張るものがある。「部員が多いから、みんな試合に出たくて必死で」と話すのは、元副部長で3年生の井上慶大さん。忙しい授業の合間をぬって、自主練習に励んできたのだと、照れ笑いを浮かべる。

また、個々の活躍に加え、医歯薬ソフトテニスリーグ戦の団体戦でも好成績と、その団結力には、目を見張るものがある。「部員が多いから、みんな試合に出たくて必死で」と話すのは、元副部長で3年生の井上慶大さん。忙しい授業の合間をぬって、自主練習に励んできたのだと、照れ笑いを浮かべる。

また、個々の活躍に加え、医歯薬ソフトテニスリーグ戦の団体戦でも好成績と、その団結力には、目を見張るものがある。「部員が多いから、みんな試合に出たくて必死で」と話すのは、元副部長で3年生の井上慶大さん。忙しい授業の合間をぬって、自主練習に励んできたのだと、照れ笑いを浮かべる。

また、個々の活躍に加え、医歯薬ソフトテニスリーグ戦の団体戦でも好成績と、その団結力には、目を見張るものがある。「部員が多いから、みんな試合に出たくて必死で」と話すのは、元副部長で3年生の井上慶大さん。忙しい授業の合間をぬって、自主練習に励んできたのだと、照れ笑いを浮かべる。

SAGAMIKO CAMPUS SOFT TENNIS

薬学部の学生が学ぶ相模湖キャンパス。高台からの眺めが気持ちよいテニスコートにはいつも、学生たちの笑い声があふれています。それぞれがプレーヤーとして強くなることはもちろん、みんなでひとつの目標を達成することが一番大事——それが軟式庭球部のモットーです。



Good Fellows.
やっぱり
仲間が、
一番です

Surprise Us.

先生が、
教えてく
れるコト



平林邦介教授
Kunisuke Hirabayashi
帝京大学文学部社会学科

長野県生まれ。慶應義塾大学卒業後、日本テレビに入社。報道局や制作局、編成局などを経て執行役員を務める。代表作はドラマ「つくし誰の子」「花咲け花子」、映画「BUSU」など。加えて、「泉ピン子を世に送り出した」功績を持つ。



視聴率がすべて!の
世界で、
時代の風を読む。

制作したドラマは700本、
現場の裏側を学生に語る。

長年、日本テレビでドラマや映画の制作に携わってきた平林邦介教授は、2007年、社会学科メディア・コミュニケーションコースの教授に就任した。「映像論」や「テレビ報道論」、「テレビ産業論」といった平林教授の授業では、マスコミ関連企業への就職をめざす学生たちが、熱心に耳を傾ける。

「私が得意なのはテレビの裏話。他じやなかなか聞けないでしょう?」と平林教授は冗談めかして言った後、次のように続けた。「学生はテレビのことをほとんど知らない。どんなビジネスモデルなのか、現場ではどんな人たちが働いているのか、最近の報道のあり方も含め、講義では、学生たちが今まで知らずに過ごしてきた話を掘り下げて伝えていきます」

今年第1回目の授業では、学生たちにこんな話をした。「既存のテレビのビジネスモデルは危機的状況にある。君たち若い世代が新しいビジネスモデルを探さなければならぬ」と。昨年の世界金融危機の影響で広告収入が激減し、それがテレビ業界を直撃。結果テレビ業界自体がいまだかつてない危機に瀕している。そんな状況下だからこそ、平林教授は「憧れだけで仕事を選んでほしくない」と話す。

マスコミといっても、音楽や広告、出版や新聞など関連企業は数多い。まずは、世の中にはどんな仕事があるのかを知り、その上で将来の進路を模索してほしい——それが平林教授の切実な思いだ。

「大学時代の前半2年間は、いろいろな経験をすることに費やして、あとの2年間は将来のことを真剣に考えてほしい。そうすれば夢はきつと叶うはず」平林教授が日本テレビに入社したのは1966年。テレビの黄金期に数々のドラマや映画を制作し、手がけた作品はなんと700本以上。脚本家の橋田壽賀子さんのドラマシリーズなどは、軒並み20%を超える高視聴率を記録し、飛ぶ鳥を落とす勢いで最初の10年を駆け抜けた。時代の風。を手にとるよう感じる事ができた理由を、平林教授は「大学4年間という貴重な時間を自由に過ごすことができたから」と振り返る。

「大学生の頃は年間300本ぐらい映画を観ていた。東映の時代劇とか日活の仁義物とかね。私は観客動員数の多い映画しか観なかったから、何が視聴者にウケるか、肌で感じていたんだね。その経験がテレビ局に入ってからすごく活かされたんだと思う」

大学時代をいかに過ごすか。それが、未来を決める鍵になるのかもかもしれない。

Takahisa Kudo

帝京大学法学部法律学科観光コース1988年卒。ヒルトン東京に約6年間勤務した後、ウエスティンホテル東京開業に伴い転職。フロント業務を経て、現職へ。大学時代に所属したテニス部では、現在コーチとしても活躍中。学生のよき相談相手となっている。

究極のサービスは、
信頼関係から生まれる。



「入社当初は、とにかく大変でした。3ヶ月で名刺を400枚配ったんですよ。その中にはもちろんお詫びもありました。でも、そのときのお客さまの大半とは15年経った今でもお付き合いがあるんです。こちらがマイナスの印象を与えてしまっても、きちんとフォローすることでリピーターになってくださる方がいる。私にとって、何よりの喜びです」

「元来、人と話をするのが好きな性格だったんです。それで大学入学前から「人と接することができ、かつ自分の個性を活かせる仕事に就けないか」と考えていました。そこで行き着いたのが、ホテルだったんです」

「観光コースに進学。勉学に励む傍ら、工藤さんはテニス部の活動にも精を出した。ここでは「主務」と呼ばれる主将の補佐役をこなしながら、選手としての練習にも励む毎日。「上に立つより、みんなと一緒に努力しながら目標を達成していくほうが向いている」との言葉通り、常に部員と同じ目線で接し、ムードメーカーとして活躍してきた。ホテルマンの夢を叶えてからも、相手の気持ちを汲み取りながら円滑にコミュニケーションを取るという姿勢は変わっていない。

「サービスって、どこまで信頼関係を築けるかがカギなんです。そのためには相手のことを理解し、求められていることを理解できないことを把握する作業が不可欠。究極のサービスとは、人間の追求だと私は思います」

「マニユアルにないホスピタリティは、思いやりから生まれる。それは「人が好き」という気持ちがあつてこそだ。テニスでも仕事でも、たくさんの人に分け隔てなく注いできた無償の愛。それが、今の彼への信頼につながっているに違いない。」

INTERVIEW
ウエスティンホテル東京
カスタマーサービス マネジャー

工藤 隆久 さん

What's Up?

いま、
何やっ
てる?

ART

「昔っぽさを感じさせないシンプルなデザインが好き」

推薦人 工学部バイオサイエンス学科1年 湊川いづみさん



▲「LC4」ル・コルビュジエ、ピエール・ジャンヌレ、シャルロット・ベリアン (カッシーナ・イクスシー 青山本店 www.cassina-ixc.com)
ル・コルビュジエの家具の中でも世界的な知名度を誇る作品。フォルムの曲線美や毛皮の選定など、随所にこだわりが見られる。

現在でも色あせない計算しつくされたデザイン。近代建築の巨匠、と賞賛され、世界中に影響を及ぼしたフランスの建築家、ル・コルビュジエ。絵画や彫刻、デザイン等の分野でも多彩な才能を発揮し多くの作品を残している。そんなル・コルビュジエの作品に「一目惚れしました」と話すのは、バイオサイエンス学科1年の湊川さん。「彼の作品の中でも一番好きなのは、「LC4」という製品名の休息椅子です。80年以上前にデザインされたものの、昔っぽさを感じさせないスタイリッシュな作りが好き。実際にショッップで見つけて座ってみたんですが、身体にフィットして心地良かったんです。もともと建築やインテリアに興味があつて、休みの日は美術館やインテリアショップなどを巡ることも多い。現在は実家暮らしですが、キャンパス付近のひとり暮らしも考えているのだそう。「インテリアの中でも椅子が好きなので、椅子をメインにしたシンプルな部屋に憧れます。どんな部屋にしようか、今からわくわくしています」と、これからの大学生活もますます楽しくなりそうです。

全国にある帝京大学のキャンパスで学生生活を送るみなさんに、友だちにもすすめたい、お気に入りひとつ、聞かせてもらいました。お気に入りの場所や映画、音楽や本。そこには、それぞれの思い出と、大学生活の現在がいっぱい詰まっています。

MUSIC

「共感したり励まされたり、音楽は生活の一部です」

推薦人 薬学部薬学科2年 黒澤隆行さん



▲「十七歳」Base Ball Bear (EMI Music Japan ¥2,500)
2007年に発売されたBase Ball Bearの2ndアルバム。高い音楽性と演奏力で大きな話題を集めた1枚。

誰の耳にもずっと馴染む等身大のロックバンド。軽音楽部に所属し、バンドのベースを担当している薬学科2年の黒澤さんが惚れ込んでいるのは、Base Ball Bearというロックバンド。06年のメジャーデビュー以来、その圧倒的なステータスや遊び心溢れるキャラクターで、10代、20代の男女から圧倒的な支持を集めている4人組だ。「等身大の素直な歌詞が好きで、中でも『十七歳』という曲は高校生のときに初めて聴いて、すごく共感したのを覚えています。

ノリがよくてキャッチーな曲ばかりなので初めての人でも聴きやすいと思う。普段ロックをあまり聴かない彼女にもおすすめしてみたところ、すぐに気に入ってくれたというエピソードも…。バンドを始めてからまだ1年足らずという黒澤さん。12月に行われる軽音楽部のクリスマスコンサートが、初めての人前で、技術面よりもとにかくみんなで楽しみたい」と言いつつも、毎日なんと2、3時間は自宅で練習しているという努力家。当面は大好きな音楽とバンド漬けの日々になりそうです。

Our Recommend!

みんなの、カルチャー

「何度観ても飽きない、一生大事にしたい映画です」

推薦人 福岡医療技術学部作業療法学科2年 富田茂文さん



▲「バック・トゥ・ザ・フューチャー」プレミアム・ベスト・コレクション (ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント ¥1,800)



©1985 Universal Studios. All Rights Reserved.

▲「バック・トゥ・ザ・フューチャー」奇抜なアイデアと練られた演出で、今なお世界中で愛され続けているSFアドベンチャーの名作。パートⅡ、パートⅢとシリーズ化された。

時空を越えて展開する波瀾万丈のストーリー。作業療法学科2年の富田さんがおススメする映画は、SFアドベンチャーの超傑作「バック・トゥ・ザ・フューチャー」シリーズ。主人公の高校生マーティがブラウン博士の開発したタイムマシンに乗って、現在、過去、未来を行き来する壮大なアクション・コメディだ。「初めて観たのは小学校高学年のとき。当時、タイムマシンに憧れていたのもあつてすっかりはまってしまい、それ以来大ファン」と話す富田さん。高校生の

ときにはDVDを購入し、週に一度は観ていたというほどの溺愛ぶりだ。「過去に起こったことと現在の出来事で、現在や未来が大きく変わったり、時空を越えて仕掛けられた展開が面白い。何回観ても飽きないです」と声を弾ませながら教えてくれた。将来の目標は作業療法士。3年生から始まる実習に向けて学ぶことも多く、今はゆっくり映画鑑賞ができる時間はあまりないのだから、それでも行き詰まったときや気分転換をしたときは、この作品を手に残していきたい、そんな映画です」

「限られた人生の、一瞬一瞬を大切に!」

推薦人 文学部心理学科1年 蛭間初音さん



▲「生きる わたしたちの思い」谷川俊太郎 with friends (角川SSコミュニケーションズ ¥1,260)
みんなの考える「生きる」とは? 短い詩に込められたさまざまな人間模様に心がほっこり温まる詩集。

人の数だけ答えがある、それぞれの「生きる」意味。谷川俊太郎氏の傑作「生きる」という詩をヒントに、みなさんの思う「生きる」を繋げて一つの詩を作りませんか?。07年秋SNSサイトのmix上に書き込まれたこの呼びかけに、半年で2千件を超える投稿があつた。その投稿作品をまとめたのが「生きる わたしたちの思い」という一冊の本だ。

心理学科1年生の蛭間さんもこの本に感銘を受けたひとり。「本の帯に、泣きたくなるほど優しい本」と書いてあるんですが、まさにその通り。命や愛についてのみんなの詩を読むと、温かい気持ちになります。この詩集に出合ってから、彼女自身の考え方も少し変わったという。「普段気づかないような日常の当たり前のことが、生きていくということ、なんだと気づかせてくれる。限られた時間しかない人生の一瞬一瞬を大切にしようと思いました」人と触れ合う事が大好きで、大学でもたくさんの友達ができ、充実した毎日を送っているという蛭間さん。「私にとって、命は生きる愛、誰にでも愛を持って接していきたいです」

MOVIE

BOOK

写真家 平野太呂さんとジン(写真集)をつくろう

秋晴れがさわやかな日曜日の午後。都内で第1回Flair Workshopが開かれました。それぞれが思い思いの写真を取り、1冊にまとめる。どんなジンができるのでしょうか——。



Flair編集部で作業中のみんな。プリントアウトした写真をカッターで切り、台紙に貼っていく。今日初対面だという学生もいたが、和気あいあいと作業が進む。

平野さん、「ジン」って何ですか？
あまり聞いたことのない名前だけど、一体ジンってどんなもの？ 今回のワークショップの講師である平野太呂さんは、世界でも有名なジン好きの写真家。「ジンはコピーした紙をホッチキスで綴じただけの冊子のこと。呼び名は magazine の zine (ジン) からきているんじゃないかな」

できる小さな本のようなものだ。90年代に欧米のカルチャーシーンで生まれ、ひとつのムーブメントとして世界中に広まった。最近日本でもひそかに注目されている。
11年ほど前から、何冊もジンを作り続けている平野さんは言う。「簡単にしてくれるスピード感が痛快で、何回でもコピーで増刷できるのもジンのいいところだよ」

まずは住宅街の中を散策、撮影してみる。
今回のワークショップでつく
るジンは、デジカメの写真をペー
ストした写真集だ。参加したの
は4人。みんな、ちょっと緊張
した面持ちで平野さんのギャラ
リー(渋谷区)にやって来た。
まずは写真を撮る。平野さん
のギャラリーから近くの工芸編
集部までの住宅街を、デジカメ
を片手に散策。出発前に平野さ
んはみんながいつもはどのよう
な写真を撮るのか質問していた
ことがないという。どこにでも
ある当たり前の住宅街。4人は
どのように工夫して、写真を撮っ
てくるのだろうか——。



Flair Workshop 参加メンバーです。

藤田千春さん(左) Chiharu Fujita 経済学部観光経営学科4年
羽田桃子さん(中央右) Momoko Hada 文学部日本文化学科3年

石川正起さん(中央左) Masaki Ishikawa 経済学部経済学科4年
横山まりえさん(右) Marie Yokoyama 文学部日本文化学科3年

集合場所の平野さんのギャラリーの前で平野さんと話す4人。和やかな雰囲気の中、ワークショップがスタートした。

4人のジンが完成しました!



『くらしとせぜん』

Marie Yokoyama

「撮るうちに、こんな街中にも自然がたくさんあることに気づいて。カメラって楽しいですね」。住宅街にこんなに緑があったのかと気づかされる、横山さんの素敵な1冊。



『「ギュッ」とあつめて』

Chiharu Fujita

「写真を選ぶのが楽しかったです。ほら、おばちゃんいい笑顔してるでしょ?」。写真を見開きで使ったり、斬新なアイデア満載の藤田さんのジンは、繰り返し見たいくなる。



『人の流れ、時の流れ。』

Masaki Ishikawa

「普段は風景しか撮ってなかったから、意識的に人を撮ってみました。撮るうちにイメージが固まってきた感じです」。構図にもこだわりが見える写真はプロも頭負けの仕上がりが。



『ほのぼの』

Momoko Hada

「猫が撮りたくて、時間も忘れて探しちゃいました。ものすごく楽しかったです」。タイトル通り、羽田さんらしいほっこりとしたジン。ページをめくるたび、思わず心が和む。



Workshopいかがでしたか?

「みんなのびのびと制作する姿が印象的で、僕も楽しかった。普段、Flairの撮影でキャンパスで会う雰囲気とは違ったな。ジンは簡単だから気が向いたらまたつくってみてね」

平野太呂さん Taro Hirano
写真家

1973年東京生まれ。武蔵野美術大学映像学科卒。2000年よりフリーランスとしてファッション誌やカルチャー誌、広告、CDジャケットの撮影などで活躍。No.12 GALLERYの運営も。

し、大きさを調整しながら台紙に貼っていく。それをページごとに両面コピーで刷り、ホッチキスで綴じたら完成だ。同じエリアを撮影したが、4人のジンはまったく違うものに仕上がった。「ジンで見ると、自分の写真が立派に見えるびびりです」とうれしそうに話す横山まりえさん。「自分の思うままに撮ったり綴じたり。すごく楽しかった」と羽田さんも笑顔を見せる。

アナログな方法で綴じていくからこそ、自分の感性がそのまま映し出されるジンづくり。その楽しさとともに、モノづくりの感動も平野さんに教えてもらった素敵な一日となった。

写真を撮り、ページレイアウトを考え、コピーして綴じる…。自由な発想のもとに、つくられるジン。平野さんのやさしい指導のもと、自分だけのジンが完成しました。

ワークショップの流れ

1

撮影を始める前に。

ふだんはどんな写真を撮っているのかと平野さんが質問。4人からはサークルでの記念写真や旅行での風景などの写真を撮るとの答えが返ってきた。「今日はいわゆるきれいな風景はないと思うから、考えながら撮影してみてね」



2

撮影に出かけます。

平野さんのギャラリーからFlair編集部までの道のりを、それぞれデジカメを持ち、ひとりで撮影する。4人とも地図を片手に思い思いの場所へ向かった。どこにでもある風景を、4人は試行錯誤しながら撮影していた。



3

ジンにまとめる。

まず、使う写真を選ぶ。表紙に使う写真には、好きなフォントを選び、タイトルをレイアウトする。プリントアウトしたら、台紙に貼っていく。それを原本に、コピーで増刷し、最後にホッチキスで綴じたら完成だ。



近所に大学があるのを発見した石川正起くんは、キャンパス内で何やら足下を撮影中。「カメラから覗くと普段だと気にもならないペンキの跡もおもしろく見えますね」と楽しそう。

庭に植えられているアサガオの葉を撮影している羽田桃子さんは「ほら、ハートの形に見えませんか?」と笑う。撮影している間、4人はカメラのファインダーを通していつもは気づかない小さな発見を楽しんでいた。

写真を選び、ストーリーを紡いでいく。

散策すること約1時間半。思い思いの撮影を終えて、4人が「B1編集部に到着した。「それぞれ性格が出てくるね」と写真をみた平野さんは興味津々。

「ひとりでいたら、人恋しくなっちゃって。おばちゃんに話しかけて撮影させてもらいました」と話すのは人懐っこい性格の藤田千春さん。彼女らしい温かい写真が並んでいる。

次は、写真を室内でジンにまとめる作業だ。撮影した中から数枚の写真を選ぶ。「どんな本にしたいかを考えながら選んでみてね。そしたら、1冊を通して伝えたいストーリーも見えてくるよ」と平野さん。写真を選ぶ4人の表情は真剣そのもの。どんなストーリーのジンが出来るのだろうか。

選んだ写真はプリントアウト

QUESTION

形成外科ってどんな治療をするところですか？

美容外科ともちがうし、整形外科ともちがう。脳神経外科や心臓血管外科など、「外科」と名のつくものは多いけれど、今回は、ふだんあまり耳慣れない「形成外科」についてお話を伺いました。

ANSWER

簡単にいえば、体の表面の外科です。

形成外科について教えてください。

Dr.: 生まれつきの変形、けが、できものなどによって傷ついた、あるいは失われた体表の組織をなるべく正常の状態に戻すように治療するのが形成外科です。外科とはいえ、必ずしも手術をするわけではありません。例えば整形外科で腰痛を治すとき、まず検査でその原因を明らかにし、状況によっては安静や湿布で治すように、形成外科でもまず傷や欠損の状態を明らかにした上で、適切な薬や被覆剤などを選択し治療します。もちろん、必要があれば手術もします。

ていきました。すなわち、心臓血管外科は心臓の病気を、腹部外科は胃や大腸、肝臓などの病気を、そして脳神経外科は脳の病気を扱うようになりまし。その結果、従来の外科が扱っていたような分野は、専ら整形外科と形成外科が扱うことになったのです。つまり、手足の骨や筋肉といった運動に関する深い部分は整形外科が、それ以外の表面に近い部分は形成外科が扱うようになりまし。なお、顔や手先の部分は骨や筋肉も形成外科が扱います。

具体的にはどんな治療をするんですか？

Dr.: 繰り返しになりますが、外科といっても必ずしも手術だけで治すものではありません。眼科医が眼の解剖や病態(病気の様子)に精通しているように、心臓血管外科医は心臓の解剖や病態に精通していて治療にあたります。同様に形成外科医は、体表に近い部位の解剖と病態、そして創傷治療(傷の治り)のメカニズムに詳しいので、このような知識をベースに、傷ついた、あるいは失われた体表の組織を、早くきれいに治すのです。この際、まず薬や理学療法で治すようにしますが、状況によっては手術をします。

外科医は、体表に近い部位の解剖と病態、そして創傷治療(傷の治り)のメカニズムに詳しいので、このような知識をベースに、傷ついた、あるいは失われた体表の組織を、早くきれいに治すのです。この際、まず薬や理学療法で治すようにしますが、状況によっては手術をします。

やけどを例にとりますと、浅い(軽い)やけどは自然に皮が張って(上皮化といいます)若干の傷痕を残すだけで治りますが、深いやけどはなかなか上皮化せず、上皮化しても醜い傷痕を遺します。これが手であれば、指が伸びなくなったり(拘縮といいます)もします。形成外科医は、最初にやけどの深さを判断し、治療方針を決めます。浅ければ、薬などを使って傷が治りやすい環境を整え、上皮化を待ちます。一方、深くてこのままでは拘縮や醜い傷痕を遺すと判断すれば、皮膚移植などの手術を行います。

その他、最近増加している糖尿病患者さんの足壊疽もなるべく負担の軽い治療をめざしています。糖尿の患者さんは傷が治りにくく、従来は膝上や膝下での切断を行っていましたが、そうすると社会復帰に時間がかかり、歩けないままになる方も少なくありません。そこで、創傷治療の知識を生かし、なるべく足を切らないように治します。どうしても切らなければならぬ場合は、組織を他から移植したりしてなるべく長く保つようにはします。

先生の専門分野はどんな治療ですか？

Dr.: 骨が原因となった顔の変形を治すのが専門です。これは主に手術によります。例えば生れつき、あるいはけがなどで頭の骨が小さかったり曲がったりしている患者さんの治療を行っています。もちろん、通常の骨折の治療なども

します。顔はどうしても人目を引く部分で、変形が気になり出でけないという患者さんも少なくありません。社会の中でより良い生活ができるようにならなければ、これに勝ることはありません。

ところで、先生の趣味はなんですか？

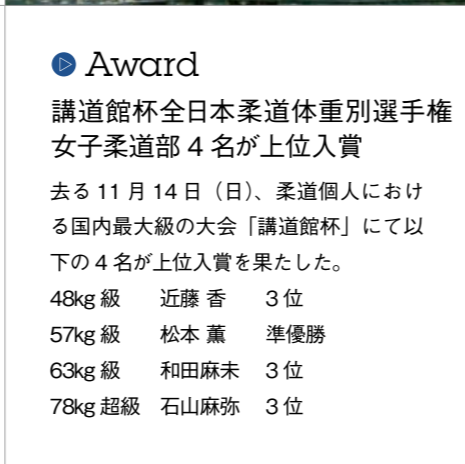
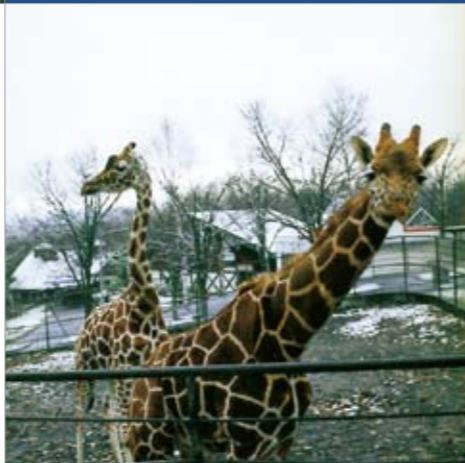
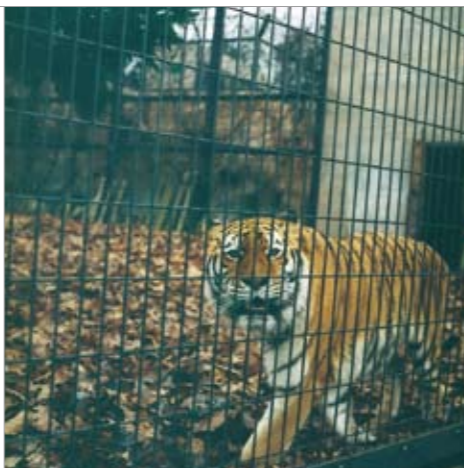
Dr.: 休日はよくゴルフに行きますが、あまりうまくありません。手術より難しいですね(笑)。



平林慎一教授 Shinichi Hirabayashi 帝京大学医学部形成外科 1976年東京大学医学部卒業。同大学医学部形成外科入局。86年に自治医科大学一般外科(形成外科)講師を経て、94年より現職に至る。

Notice Board.

大学からのお知らせです



Championship

関東大学空手道選手権大会にて空手道部が大活躍

去る11月1日(日)、日本武道館にて第52回関東大学空手道選手権大会(団体戦)が開催され、本学空手道部が「男子団体組手」、「女子団体組手」、「男子団体形」、「女子団体形」のすべての部門において優勝をおさめた。今後の活躍からも目が離せない。



Award

第86回箱根駅伝への出場決定 3年連続11回目

去る10月17日(土)、昭和記念公園にて第86回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会が開催された。本学駅伝競走部は47大学中5位の好成績をおさめ、来年1月2日、3日に行われる本選への出場権を獲得。本選でのシード権獲得をめざす彼らの活躍に大いに期待したい。

Award

講道館杯全日本柔道体重別選手権 女子柔道部4名が上位入賞

去る11月14日(日)、柔道個人における国内最大級の大会「講道館杯」にて以下の4名が上位入賞を果たした。

- 48kg級 近藤香 3位
- 57kg級 松本薫 準優勝
- 63kg級 和田麻未 3位
- 78kg級 石山麻弥 3位

Editor's Note

今号で訪れた旭山動物園。園内をゆっくり見学させていただく時間はなかったものの、坂東さん(園長さん)のお話に深い感銘を受けて帰ってきました。動物を心から愛し、限られた空間の中でいかに動物が動物らしく一生を過ごしているか...という視点から始まった旭山動物園の展示方法が、結果的に来園者数の増加につながったというのはすばらしいことですね。私は、坂東さんの「北海道の旭川という場所で、この動物園が社会的に意見を言えるようになったということが大きいんです」という言葉がとても印象的でした。注目を浴びても決しておごることのないまっすぐな情熱と、人間と動物の共存・未来について取り組める喜びを語ってくださった坂東さん、本当にありがとうございました！

See You Next Issue!!

10年3月10日 Vol.77 配布予定

Staff Credit

Produce	MO GREEN
プランナー	
須藤 亮 (MO GREEN)	Ryo Sudo
Illustrator	
Shu-Tang Grafix	Shu-Tang Grafix
中村純司	Junji Nakamura
Photographer	
在本彌生	Yayoi Arimoto
押尾健太郎	Kentaro Oshio
平野太呂	Taro Hirano
渡邊有紀	Yuki Watanabe
Editor	
遠藤日和	Hiyori Endo
香川優喜	Yuki Kagawa
仲野裕子	Satoko Nakano
高橋和季 (MO GREEN)	Kazuki Takahashi
山本素平 (MO GREEN)	Shuhei Yamamoto
塚原加奈子 (MO GREEN)	Kanako Tsukahara
Art Director	
武田昌也 (MO GREEN)	Masaya Takeda
井口 創 (MO GREEN)	So Iguchi
Designer	
大川方未 (MO GREEN)	Masami Okawa
Publisher	
帝京大学本部	TEIKYO University
大学PR推進室	PR Section

Flair

発行月: 2009年12月(年4回発行)
発行: 帝京大学本部大学PR推進室
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189
E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp
URL: http://www.teikyo-u.ac.jp/flair/
ご意見・ご要望をお待ちしております。
郵送またはFAX、E-mailにてお寄せください。
© 帝京大学 2009 禁・無断転載